



# たけもりの里

—玉宮小学校だより—



NO.5 R5. 8. 25

文責：校長 小宮山 昇

## 2学期開始

34日間の夏休みが終わり、2学期が始まりました。子供たちは、それぞれ背が伸びたり、日焼けしたり、遅くなったりと、夏季休業中での成長が感じられました。

始業式では代表より夏休みの様子や2学期の抱負が語られ、キラキラとした表情から夏休みの充実ぶりが伺えました。きっとどの児童も貴重な夏休みを過ごし、新しい決意を持って登校してきたのでしょう。

さあ、2学期。多くの行事が行われ、児童の本領が発揮される時期です。ためらわず、恥ずかしがらず、今学期は「チャレンジ」を合言葉として多くの事に進んで挑戦していけるよう、励まし、支えていこうと思います。保護者の皆様、地域の皆様、益々の御支援をお願いいたします。



児童代表の話（2学期の抱負）



2学期始業式。24名全員が元気に登校しました。

7月開催の東山梨水泳記録会、女子50m平泳ぎ。大会新記録！



夏季休業中でしたが、玉宮小体育館で「地区納涼祭」が行われました。

# ほめて伸ばす

適切な場面で、適切なほめ方をすることは、子供たちの健全な成長を促すことにつながります。では、どのようにほめれば子供をうまく伸ばすことができるのでしょうか。

## 1 本人ががんばったところをほめる 結果より過程（プロセス）をほめる

結果だけをほめられると、人間は次に結果が出せなくなるのをこわがるようになります。それに対し、努力や過程をほめられれば、たとえ結果が出せなくとももう一度やってみよう、より難しいことに挑戦しようという気持ちをもてるようになります。

## 2 ほめるときには「価値づけ」をする

子供が成長するにつれ、その子の言動にどんな価値があるのかを伝えてあげることが必要です。例えば、しっかり大きな声であいさつができたとき、ただ「えらいね」とほめるのではなく、「それは相手を大切にしている心の表れだよ」といった言葉を付け加えることで、ほめられた実感が湧いてきます。自分の行為や態度がどんな価値をもっているか認められることで、人の心は前向きになれるのだと考えます。



### ◎ほめ方のコツ

低学年にはシンプルに  
中学年には自立心が育つように  
高学年は具体的な言葉で

## 3 ほめるのは難しくても、認めるのは簡単にできる

わが子のこととなると、欠点の方が目につきがちで、つい小言を言いたくなってしまいます。そんな時、無理にほめようとせず、努力や変化を認めることが必要です。事実をそのまま伝えるだけでも子どもは認められていることを実感できるのです。



「『家庭教育・子育て』Q&A」より

## 玉宮小運動会のお知らせ

玉宮地区の皆様  
是非、足をお運び  
ください

日時：令和5年9月30日(土)

午前8時30分～午前11時45分頃

雨天時は10月1日(日)に順延

場所：玉宮小校庭

\*当日の天気に応じ、飲み物、日傘等をお持ちください